

防災 と ボランティアの つどい



毎年1月17日は「防災とボランティアの日」
1月15～21日は「防災とボランティア週間」

平成20年度

防災とボランティアのつどい

プログラム

2009.1.21 [WED]

内閣府主催

国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟102ほか（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

開催趣旨

平成7年1月の阪神・淡路大震災以降、災害時におけるボランティア活動はますます大きな役割を果たしてきています。

そこで、防災の様々な局面（避難、復旧・復興、災害予防など）における活動について意見交換を行い、交流を深めるために「防災とボランティアのつどい」を開催します。

今回のつどいでは、「共助」（地域活動やボランティア活動など）に取り組む方々が、本年度の全国各地における多様な取組の全体像を把握し、今後のより効果的な活動の展開につなげていくことに資する機会とします。

プログラム

以下敬称略

10:00～10:10	開会・あいさつ （センター棟102（1階））
10:10～12:00 【110分】	全体会（午前の部） （センター棟102（1階）） 【コーディネーター】 池上 三喜子（財団法人日本YWCA常任理事 財団法人市民防災研究所理事） 【コーディネーター】 室崎 益輝（関西学院大学総合政策学部教授） 【被災地からの報告】 岩手・宮城内陸地震に係るボランティア活動 平成20年8月豪雨災害に係るボランティア活動 【分科会イントロダクション】
12:00～13:00	昼食・休憩・移動
13:00～15:00 【120分】	分科会 分科会1 都市型災害とボランティア活動 <センター棟102（1階）> 【ファシリテーター】 中橋 徹也（NPO法人東京いのちのポータルサイト監事） 分科会2 ボランティア活動における安全衛生 <センター棟513（5階）> 【ファシリテーター】 岡野谷 純（NPO法人日本ファーストエイドソサエティ代表理事） 分科会3 復興とボランティア活動 <センター棟107（1階）> 【ファシリテーター】 稲垣 文彦（社団法人中越防災安全推進機構 復興デザインセンター副センター長）
15:00～15:10	移動・休憩
15:10～16:30 【80分】	全体会（午後の部） （センター棟102（1階）） 【コーディネーター】 山下 祐介（弘前大学人文学部・公共政策講座准教授） 【コメンテーター】 菅 磨志保（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教員） ○分科会からの報告 ○意見交換 ○まとめ

開 会

10:00～10:10

1) 開会

以下敬称略

2) 主催者あいさつ

田口尚史 大臣官房審議官 (防災担当)

3) つどいの進め方について

事務局

全 体 会 (午前の部)

10:10～12:00

以下敬称略

【コーディネーター】

池上 三喜子 ((財) 市民防災研究 理事、(財) 日本YWCA 常任委員)

1945年 兵庫県生まれ

1970年 東京YWCA学院 社会福祉科卒業

1992年 (財) 市民防災研究所入所 現在に至る

所属委員会等

東京都火災予防審議会委員、東京都震災復興検討会議委員、東京消防ボランティアセンター会長、東京災害ボランティアネットワーク専門員、千葉県地震被害想定調査検討委員会委員、東京消防庁幼児用総合防災教育教材に係る検討委員会委員ほか

専門分野

市民防災 ボランティア活動 レクリエーション等

自治会等が主催する市民防災講座・講演等の講師を多く務める

【コメンテーター】

室崎 益輝 (関西学院大学総合政策学部教授)

1944年 尼崎市生まれ。

1967年 京都大学工学部建築学科卒業。神戸大学都市安全研究センター教授、独立行政法人消防研究所理事長、消防庁消防研究センター所長を経て、2008年より現職。

所属委員会等

日本火災学会賞、日本建築学会賞、都市住宅学会賞などを受賞。

京都大学防災研究所客員教授、日本火災学会会長、日本災害復興学会会長、中央防災会議専門委員、人と防災未来センター上級研究員、海外災害援助市民センター副代表などを歴任。

著書

「地域計画と防火」、「危険都市の証言」、「建築防災・安全」、「大震災以後」など

【被災地からの報告】

- ・岩手・宮城内陸地震に係るボランティア活動 (くりこま応援の会より)
- ・平成20年8月豪雨災害に係るボランティア活動 (トヨタボランティアセンターより)

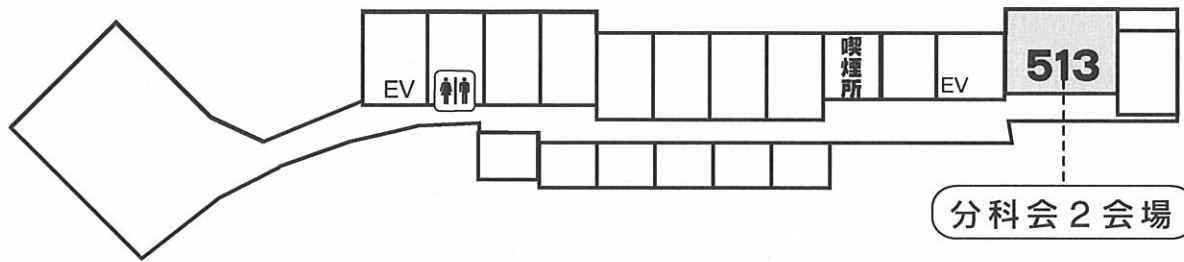
【分科会イントロダクション】

各分科会ファシリテーターより

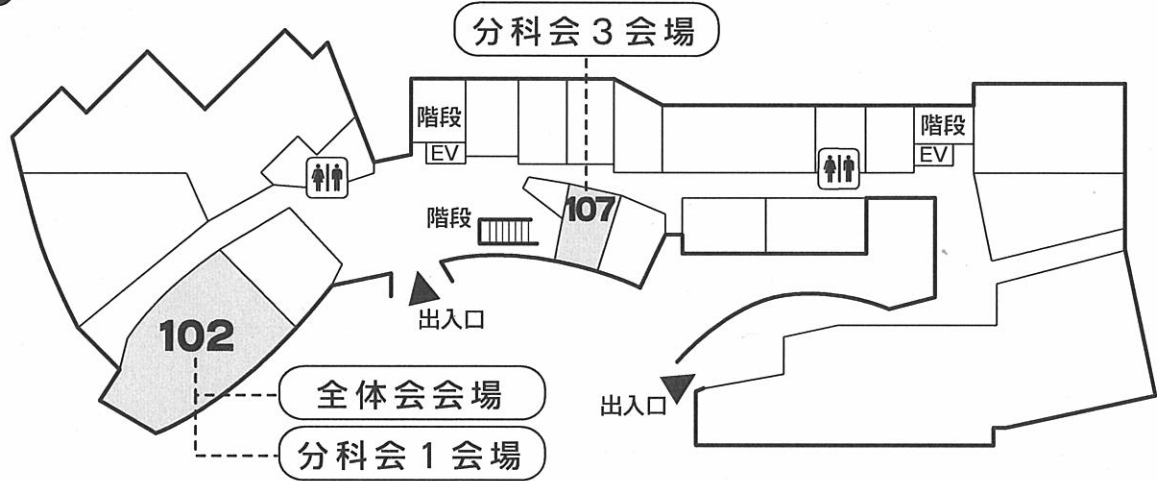
memo

会場案内図

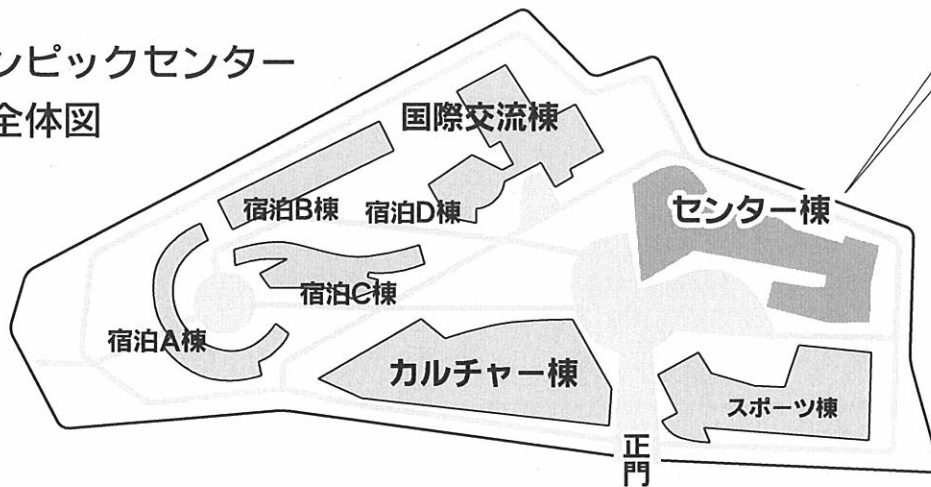
5階



1階



オリンピックセンター 施設全体図



- | | | |
|------|-------|---------------|
| 全体会 | ----- | センター棟102 (1階) |
| 分科会1 | --- | センター棟102 (1階) |
| 分科会2 | --- | センター棟513 (5階) |
| 分科会3 | --- | センター棟107 (1階) |

分科会1 都市型災害とボランティア活動

会場：センター棟102（1階）

【ファシリテーター】中橋 徹也（NPO法人東京いのちのポータルサイト監事）

1963年滋賀県長浜市生まれ

1998年東京大学大学院博士課程修了

大学院在学中に兵庫県南部地震が発生。ただちに現地入り。これまで学んできた知識が吹っ飛ばすような思いのまま、まちのおっちゃん、おばちゃんに怒鳴られ、救助活動を手伝う。そのまま現地に滞在、さまざまな手伝いを続け、災害現場のさまざまな現場、まちの復興にかかわる。

帰京後、早稲田大学周辺の商店街のまちづくり活動に参加。東京のさまざまな地域でまちづくり、産業・環境・福祉・教育などさまざまな活動に取り組む団体・個人と一緒に、東京の壊滅的な大震災を少しでも軽減するため、NPO法人東京いのちのポータルサイトの立ち上げに参加、監事を務め、住宅の耐震化、震災後の心のケアなどに取り組んでいる。

現在、地震、火山噴火、水害などさまざまな災害フィールドに足を踏み入れ、その経験から、災害現場にかかわるさまざまな問題に取り組む。また、福祉の現場にも足を踏み入れ、災害時の要援護者、普段の要援護者の問題、助け合い、支え合いのためのまちづくり活動もかかわる。火山噴火災害を軽減するための工学・行政の境界分野を専門とする研究者でもある。

【話題提供】

- ・中央区における防災の取組み（町会・事業所など）（中央区防災課より）
- ・帰宅困難者対応訓練（東京災害ボランティアネットワークより）
- ・都心部の大学生ボランティアによる災害対策訓練（工学院大学より）

分科会2 ボランティア活動における安全衛生

会場：センター棟513（5階）

【ファシリテーター】岡野谷 純（NPO法人日本ファーストエイドソサエティ代表理事）

東京学芸大学教育学部卒、上智大学カウンセリング研修課程修了

小西六写真工業株式会社（現コニカミノルタ）研究所で技術リエゾンを務める。1991年退社。

1990年代、子どもの事故予防・事後ケアに関する啓発プログラムについて、妊娠中の友人や保育士たちと勉強会をはじめめる。

1992年、本格的な小児救急法を提供開始。また市民が応急・救命手当を実施する際には感染防止が必須であることを強く啓発。1993年、日本ファーストエイドソサエティを興す。

1995年、阪神・淡路大震災において、現地で活動するボランティアの健康管理・ストレス対策の必要性を痛感し、現地に入り健康管理コーディネイト活動を展開。同時にボランティアの安全健康管理に関する研究を開始。

2001年、救急救命活動をした市民のストレスや不安解消のために電話相談活動を開始。AED（自動体外式除細動器）の国内導入・市民使用を提言。

2005年、ボランティアの安全衛生研究会を共同主宰。現在に至る。

共同著作：「目からウロコの安全衛生プチガイド」、医学監修：「大地震、死んではいけない」救急救命士。

【進行内容】

1. オリエンテーション
2. 防災シミュレーションゲーム「クロスロード」安全衛生編の体験（全体）
3. 防災シミュレーションゲーム「クロスロード」安全衛生編の体験（グループ）
4. 結果共有・意見交換
5. ふりかえり

分科会3 復興とボランティア活動**会場：センター棟107 (1階)****【ファシリテーター】稲垣 文彦 (社団法人中越防災安全推進機構 復興デザインセンター副センター長)**

中越地震時、「長岡災害ボランティアセンター山古志班」にてボランティア活動を始める。

その後、山古志村生活支援相談員を経て、「中越復興市民会議」事務局長に就任。

現在は、同職も兼務しながら、新潟県内にて、復興、防災の人材育成を行っている。

委員等

日本災害復興学会理事、特定非営利活動法人 災害看護支援機構理事

特定非営利活動法人 災害建造物復旧・復興支援会議理事

特定非営利活動法人 中越防災フロンティア理事

【話題提供】

- ・三宅島復興支援 (東京災害ボランティアネットワーク (東京都生活協同組合連合会) より)
- ・岩手・宮城内陸地震、栗駒地区支援 (現地で活動するボランティアより)
- ・コミュニティエフエム・アンテナショップによる復興支援 (中央エフエム株式会社より)

memo

以下敬称略

- 1) 分科会からの報告
- 2) 意見交換
- 3) まとめ
- 4) 閉会あいさつ

【コーディネーター】

山下 祐介 (弘前大学人文学部・公共政策講座准教授)

1969年富山県生まれ。九州大学文学部助手、弘前大学人文学部助手・講師・助教授を経て、現職。

専門

社会理論、地域社会学、環境社会学。主に災害（雲仙普賢岳噴火災害、阪神・淡路大震災）、過疎（地域活性化、限界集落問題）、環境問題（河川、山村）など、危機に対する人間・コミュニティの対応過程を扱う。

共編著書

「災害都市の研究--島原市と普賢岳」（鈴木広編、九州大学出版会（日本都市社会学学会賞・磯村英一記念賞第1回受賞（1999年）、1998年））

「震災ボランティアの社会学」（山下祐介・菅磨志保、ミネルヴァ書房、2002年）

「災害ボランティア論入門」（菅磨志保・山下祐介・渥美公秀編著、弘文堂、2008年）

「リスク・コミュニティ論 環境社会史序説」（山下祐介、弘文堂、2008年）

【コメンテーター】

菅 磨志保 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教員)

神奈川県生まれ。1995年、東京都立大学大学院修士課程在学中に発生した阪神・淡路大震災を契機に、災害や市民活動に関するフィールドワーク研究を開始。

1997年以降、東京都社会福祉協議会、東京都生活協同組合連合会などにて災害関係の委員会・調査研究事業の事務局を担当。2002年より、人と防災未来センターの専任研究員として防災研究・人材育成事業などに従事。2005年から現職。

その他、人と防災未来センター リサーチフェロー、早稲田大学客員研究員など。

専門

社会学（災害社会学、市民活動論）。平常時の地域（防災）活動、災害時における自発的な救援活動、災害復興期のコミュニティビジネスなどの調査研究に取り組んでいる。

共編著書

「市民主体の危機管理」（東京ボランティア・市民活動センター、筒井書房、2000年）

「震災ボランティアの社会学」（山下祐介・菅磨志保、ミネルヴァ書房、2002年）

「災害ボランティア論入門」（菅磨志保・山下祐介・渥美公秀編著 弘文堂 2008年）

memo

防災とボランティアのつどい事務局よりご案内

1. 本年度のつどいでは、会場から遠隔であるなどの理由によりお越しになれない方もその成果を共有することが可能となるよう、インターネットを通じた同時中継を実施しております。
2. 全体会での報告、分科会に参加された感想、今後取り組まれたいことなどをご記入いただくため、「メッセージカード」を配布しております。分科会ではご記入のための時間を設ける予定です。記入いただいた「メッセージカード」は、分科会終了後に事務局で回収させていただき、一部を全体会（午後の部）にてご紹介します。閉会后、センター棟513（5階）に掲示します。また、後日事務局でとりまとめ、みなさまに送付する予定です。
3. 参加申し込みいただいたみなさまにご協力いただきました週間に関連した取り組み行事は、事務局でとりまとめ、「防災とボランティア週間における取り組み事例集」として配布しております。みなさまの交流や今後の取り組みなどの参考にご活用ください。
4. 閉会后もセンター棟513（5階）を皆様の交流のために開放しておりますので、各地の特徴ある取り組みについて情報交換いただくなどご活用ください。みなさまからご提供いただいた資料やパンフレット等も置いております。
5. 会場内はすべて原則飲食禁止です。ご理解、ご協力よろしくお願いたします。昼食は、センター棟2階食堂などご利用下さい。
6. その他ご不明な点がございましたら、事務局スタッフにお声がけください。

平成20年度防災とボランティアのつどい 事務局

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（災害予防担当）付 伊丹・金山・藤田

（電話）03-3503-9394 （FAX）03-3581-8933

株式会社 ダイナックス都市環境研究所 担当：津賀・渡辺

（電話）03-3580-8221 （FAX）03-3580-8265 （メール）info@bousai-vol.jp